

1981年7月23日(木)

オ42回 釜ヶ崎夜向学校

(仮称)

7/23

アロマ

釜ヶ崎の歴史

今晚七時より「喜望の家」一階にて

暑くて長い夏の出来事

■今年もまた暑くて長い夏がやってきました。昨年の冷夏と違ひ、うだるような暑さが今年は予想されます。しかも仕事が少ないので一層暑さが身にこたえます。

■暑苦しさは、気分的にも不快感が増し、日頃のたまつた不満を何かにぶつけてみたくなります。丁度二〇年前の夏も大変暑い年でした。そしてあのオ一次暴動が起つたのでした。それ以後も暑い夏は年中行事のよ

うに起つたものでした。最近は大きな動きはありませんが、不満が解決したり、生活が良くなつた訳ではありません。

■我が国が、手本として明治以後富国強兵をとげた英國では、今年大きな暴動が各地の労働者住居地に起つて、富める国は、下層労働者の犠牲の上になりたっています。議会民主主義の国でさえ、沈黙させられた労働者の叫びは、力で权力と斗うしかなくなるでしょう。

■今晚は、二〇年前の暴動の歴史をふりかえりながら、英國の労働者の叫びを考えあわせながら、抑えつけられていく我々の声をどう表現していくか。また不満をただぐちをしてではなく生きる力に変えていくにはどうしたらいいかを考え学び合いたいと思します。

■是非多くの仲間が参加してください。

今後の予定

■七月三〇日(木)

スライド上映

「フイリ・ゼン・ベナナ物語」
海外の労働者の実態を知る

■八月六日(木)

労働・ビデオ上映

人夫出しと在日朝鮮人問題
夏祭りに合流

■八月二〇日(木)

運営委

■八月二七日(木)

歴史

(仮称)釜ヶ崎夜向学校とは...
我々が釜ヶ崎で、あるいは日本労働者として生きていく中で、誰でもがいつかは必ずぶつかる、一人の問題であると同時に皆の問題もある仕事や病気

1981年 7月23日(木)

(仮称)釜ヶ崎夜間学校ニュース

第41回報告 「運営について、何でも話そう。」

厳しい夏だからがんばろう

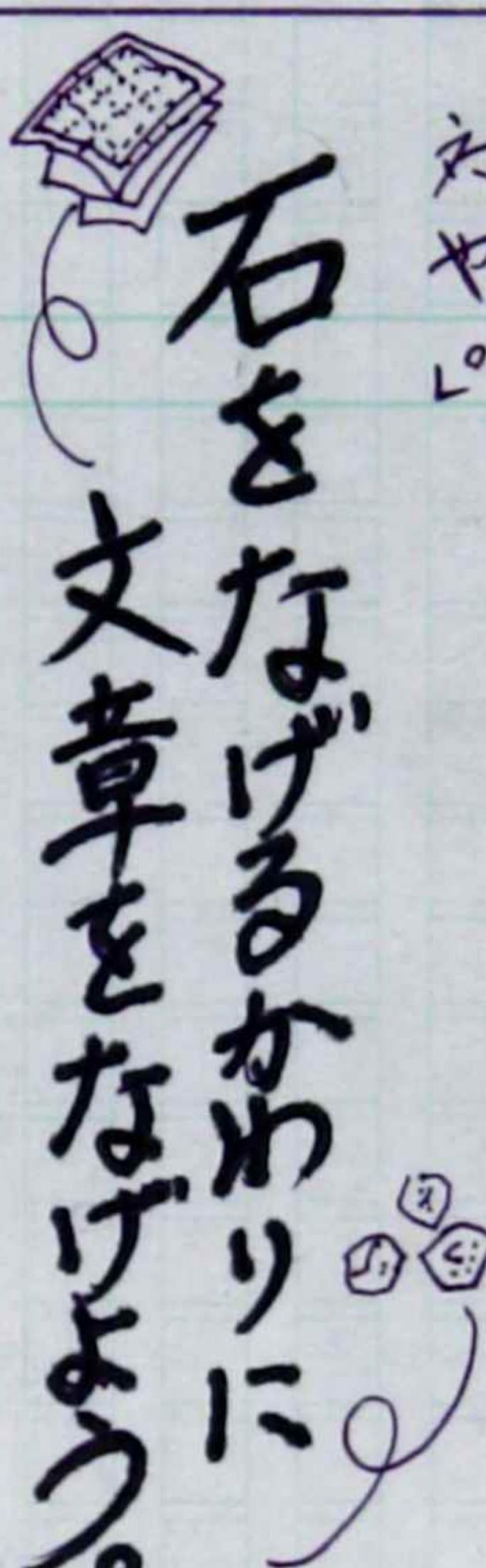
先週は仕事がでてきただが：

先週の夜間学校では、集つたみんなで、まず最近のそれぞれの生活のこと、仕事のことについて、話し合いました。

まず、「最近、少しブフ仕事がでてきた。」という意見がされました。「でも、去年より少ないし、本質的には変わったあらず、仕事がない」という状況は、まだまた続くのではないか。」という声が多くありました。

また、「釜のドヤはできが悪い。電気メーターがついていないところがある。」という意見や、その他、原発問題を研究している仲間から、「やつい意見が述べられました。釜の労働者も原発に働きにいているが、普通一万円の仕事を七千円ぐらいでやってている。最先端

で働いている。」四・五日前も、原発の求人に、センターに来てたで。「求人に来たら、みんな逃げなきゃいけん。原発絶対反対や。」

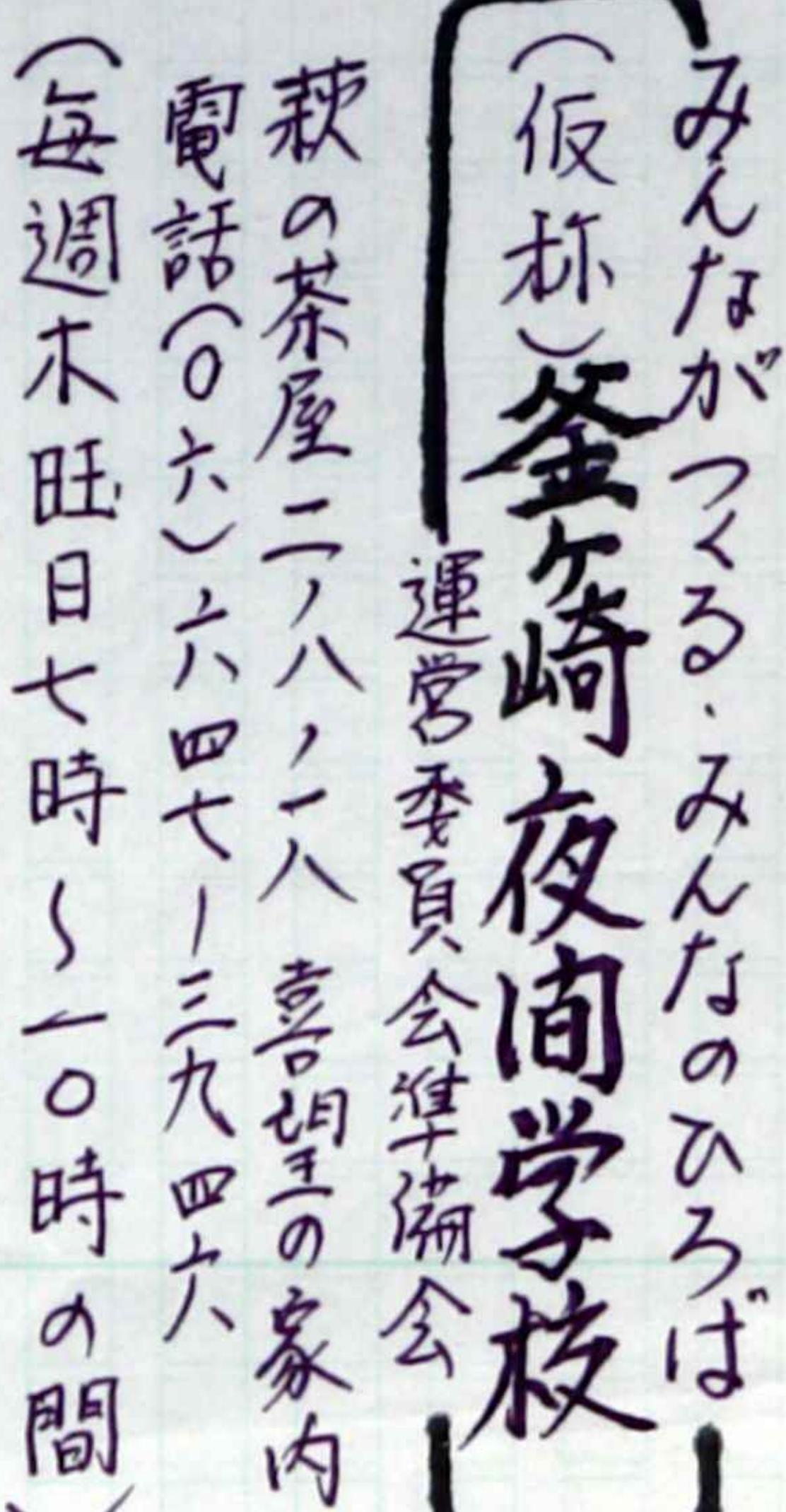
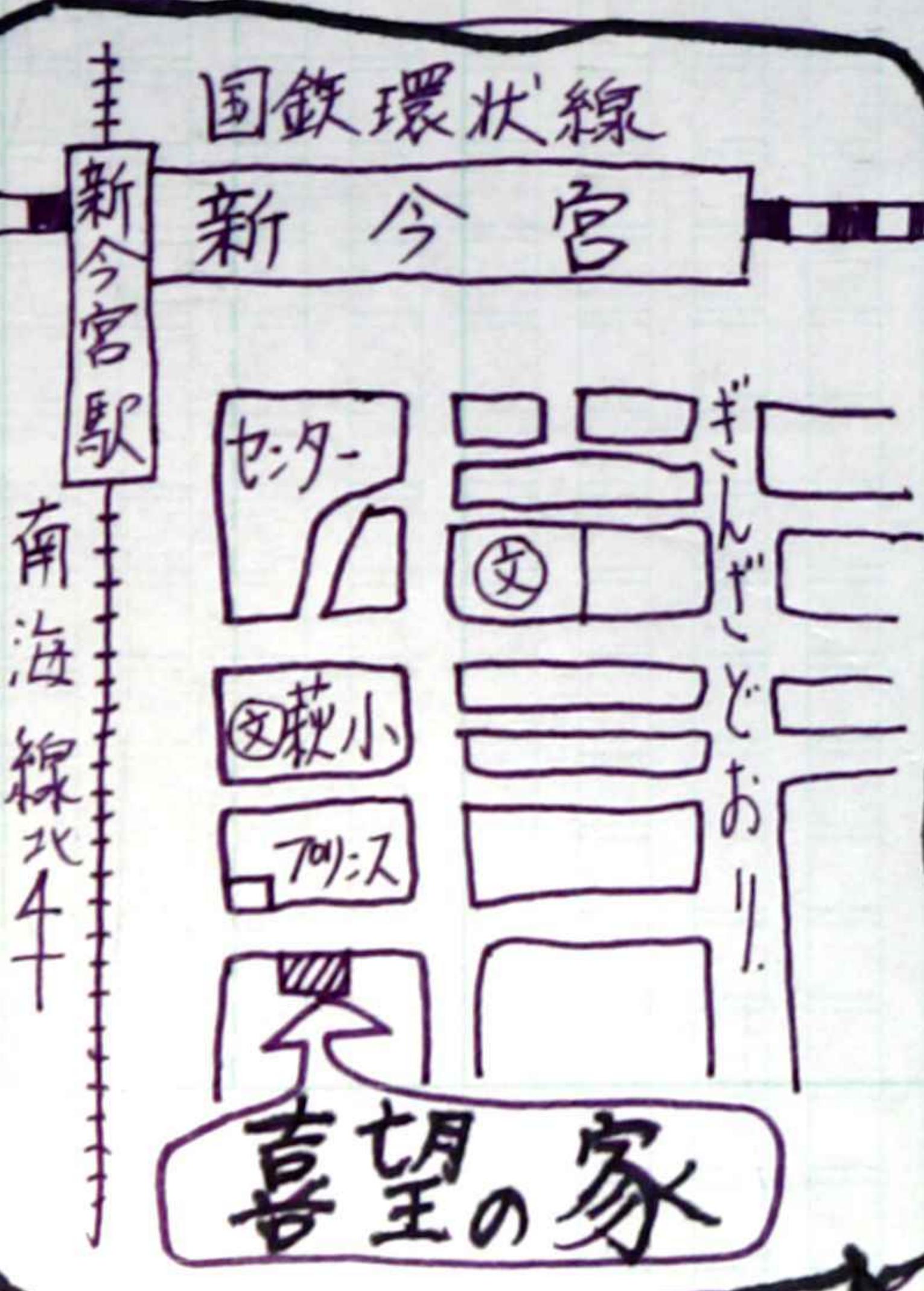


で働いている。」四・五日前も、原発の求人に、センターに来てたで。「求人に来たら、みんな逃げなきゃいけん。原発絶対反対や。」

かねてから声がでていた「文集」についても話し合いましたが、去る7月14日の朝日新聞にて
いた市大学生による釜ヶ崎労働者調査書のことと関連させて語りが展開していきました。

「労働者の人生を学問的に研究するだけではなくにもなうない。」この調査書の目的は、結局、学生が労働者の悩みになつて考えてみるという試み、なのだが。

「本人ぬきの調査もあるみたいだ。」といった様々な意見が出されましたが、この調査書が発行されてからもう一度話して考



れましたか。この調査書が発行されてからもう一度話して考えてもよということなりました。そして、「うちうの方から、このような調査書を作り出していいよ。」「釜には、案外、本を読んだり、文章を書いている人が多いようだ。」「石をなげるかわりに、文章をなげていこう。」など、た意見が出されていきました。みんながつくる、みんなのひろば